

生育早く、葉色は濃い ～追肥判断は慎重に～

7月 日	上旬			中旬			下旬		
	1	5	10	15	20	25	30		
生育	最高分けつ期			幼穂形成期			減数分裂期		
	10葉期			11葉期			12葉期		
水管理	中干し			間断かん水			湛水管理（カドミウム吸収抑制対策）		
							湛水管理は8月下旬頃まで 低温時は深水管理		
作業	★斑点米カメムシ類対策								
	畦畔草刈り						草刈禁止期間※		
	※出穂15～10日前から収穫2週間前まで。ただし出穂期10日後頃の薬剤散布後7日以内に一度草刈りを実施する。								
	★葉いもちが発生した場合								
	ブラシ剤又はノブラス剤を散布 必要に応じピーム剤の追加散布								
	★穂いもち防除を実施する場合								
① コラトップ 剤又はゴウケツ粒剤を散布									
② トライフロアブル又はピーム剤 + トライフロアブル又はラフサイド 剤									

1 7月16日現在の生育状況

○葉数は平年より1葉進み、全調査ほ場で幼穂形成期～更に生育が進んでいます。

○草丈は平年比111%、茎数は平年比99%でした。葉色は平年比105%と濃い状況ですが、ほ場によっては葉色が低下してきています。

○仙台管区気象台が令和6年7月11日に発表した東北地方の1か月予報（7月13日

～8月12日）によると、向こう1か月の気温は高い見込みとなっています。出穂も早まると見込まれるため、管理作業はほ場毎の生育を確認して行いましょう。

表1 水稻定点調査結果（農業振興普及課）

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	68.3	591	12.1	44.4
平年値	61.6	595	11.1	42.1
平年比・差 (%, ±)	111%	99%	+1.0	105%

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

2 水管理 ～カドミ対策の湛水期間は出穂3週間前から～

○カドミウム吸収抑制対策として、出穂前後各3週間の湛水管理を徹底してください。
ほとんどのほ場で例年より生育が進んでいると見られるため、湛水開始が遅れないようにしてください。

○減数分裂期から穂ばらみ期にかけて日平均気温20℃（最低気温17℃以下）の日が続き、日照時間が少ない場合には、障害不稔が発生するおそれがありますので、深水管理を行います。

○用水不足が懸念される場合は、地域で話し合い、計画的な用水の活用に努めてください。

3 追肥 ～ 幼穂形成期の生育・栄養診断を実施しましょう ～

幼穂形成期（幼穂長2mm）を過ぎているほ場も多いため、追肥の判断は慎重に行ってください。

注)あきたこまち、目標収量570kg/10a

生育型	生育過剰	理想的な生育	生育不足
草丈 (cm)	65 cm以上	60～65 cm	60 cm以下
葉色 (SPAD502) (葉色板)	42以上 (5.5以上)	39～42 (4.5～5.5)	39以下 (4.5以下)

追肥 (N成分)	幼穂形成期	なし	ムラ直し1 kg/10a	1～2 kg/10a
	減数分裂期	なし	1～2 kg/10a	1～2 kg/10a

図1 幼穂形成期の生育による追肥の診断(暫定案)

- 幼穂形成期に草丈65cm以上で葉色が濃い場合は、穂肥は控えます。
- 幼穂形成期に草丈60～65cmで、葉色の低下が見られる場合は、減数分裂期（葉耳間長±0cm）主体の追肥を実施します。
- 幼穂形成期に草丈60cm以下で、葉色が低下している場合は幼穂形成期と減数分裂期の追肥を実施します。
- 一発型の肥料を施用した場合は、基本的には追肥は控えるようにします。
- 幼穂形成期の栄養診断で、図1の基準より、草丈がかなり長く、葉色が濃いことで倒伏が懸念される場合は、やむを得ぬ緊急手段として倒伏軽減剤の使用を検討してください。ただし、生育が進んでいるため、使用時期には注意してください。

4 病虫害防除 ～ 畦畔等の草刈を徹底して斑点米カメムシ類を抑制～

★飼料用米も主食用米と同様に防除対策を行ってください★

①いもち病

- BLASTAM（アメダス）の判定によると、管内では7月9日、10日に感染好適条件が訪れたと判断されています。
- ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス）を散布して下さい。
- 葉いもちが多発しているほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）を散布するか、出穂直前にビーム剤（またはトライフロアブル）と穂揃期にラブサイド剤（またはトライフロアブル）で茎葉散布を行います。

②斑点米カメムシ

- 畦畔や農道等の草刈りは、出穂10日前までに徹底し、イネ科雑草の除去に努めます。
- 水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

！今後も高温の予報！作業前に「熱中症特別警戒情報」等の発表状況を確認しましょう！

あきたこまちRを
紹介しています！
紹介ページはこちら→



秋田米栽培情報発信
LINE始めました！
友達申請はこちら→



※クマにご注意
ください※
クマ情報はこちら→

